

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：竹村 志保美（井上太一）所属：厚木市立妻田小学校

課題名：校内LAN活用研究及びサイエンスフェスティバル

1. 課題の主旨

各教室に校内ネットワークが配置されたことに伴い、周辺機器の整備や教材の開発等を行い、普通教室でのパソコンを活用した実践研究を行い、コンテンツ等を活用した有効な授業を構築していく。

理科離れが叫ばれている中、イベントへの講師派遣や紙ヒコーキの大会を開催し、子ども達に科学の楽しさや感動を体験させる。

2. 活動状況

(1) 校内LAN活用研究

校内ネットワークが整備され、PC教室におけるパソコンを使った学習から普通教室でのパソコンを活用した授業展開の在り方について実践研究をした。

普通教室では、パソコンやプロジェクター及び磁石スクリーンを活用しながら、授業形態や活用場面や活用目的等を明確にしながら、どのような教科・領域で効果的であるかについて、研究授業を実施した。また、教材については、デジタルカメラやスキャナーやインターネットやプレゼンテーションソフトを活用しながら自作するとともに、文科省の研究指定により提供された「デジタル教材」（13コンテンツ）を活用することとした。授業での作品及び掲示については、今回提供していただいた「写真専用コンパクトプリンタ」を活用することとした。

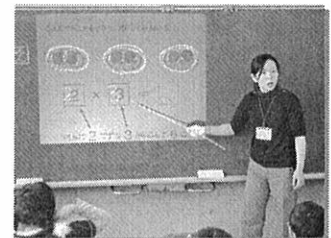
《実践授業》

① 1年国語「おもいだしてかこう」

導入場面で、パワーポイントで作成した1年間の様子をプロジェクターで投影した。子ども達は自分たちの映像が映っているので集中して見た。その後の活動の意欲づけに効果があった。

② 2年算数「かけ算」「三角形と四角形」「4けたの数」「長さのたんい」

授業の導入・展開・まとめの場面でデジタル教材や自作教材や教科書教材を使って展開した。教科書と同じ物がクラス全体で共有できた。振り返りができ学習の定着度が上がった。また、子どもの関心意欲が持続でき、活動に活気が見られた。



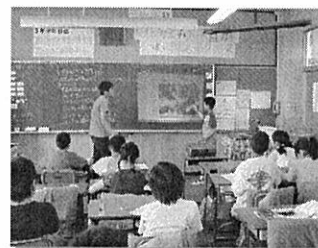
③ 4年理科「台風と天気の変化」

授業の導入・展開・まとめの場面でデジタル教材やインターネットを使って展開した。台風の動きを理解させる時、インターネットやデジタル教材を使用することにより、子ども達の理解度も高まり

意欲的に取り組むことができた。

④5年理科「天気の変化(1)」

授業の導入・展開・まとめの場面でデジタル教材やインターネット(ライブカメラ)を使って展開した。インターネットで提供されている天気図や実際の雲の様子などを見ながら学習することにより、実感を持って天気の変化を理解することができた。

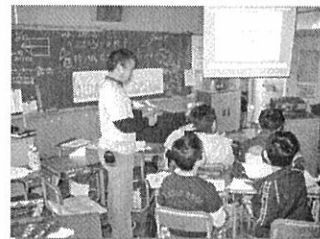


⑤6年算数「単位量あたりの大きさ」

授業の導入場面で自作教材やデジタル教材を使って展開した。子ども達は集中して取り組み、話し合いも深まった。磁石スクリーンへの書き込みによって、説明の理解度が高まった。

(2)サイエンスフェスティバル

本校での開催については未定であるため、世界に誇れる伝承文化である折り紙ヒコーキを体験させ、夢中になる喜びと豊かな想像力を育成するため、地域の子ども教室や近隣の小学校で「折り紙ヒコーキ」のイベントを実施した。イベント内容は各種折り紙ヒコーキの折り方と競技大会である。



①9月12日(火)「地域子ども教室」妻田小学校体育館 主催:睦合南公民館 80名

②9月13日(水)「地域子ども教室」清水小学校体育館 主催:睦合南公民館 100名

③10月28日(土)「ふれあいフェスティバル」三田小学校体育館 主催:三田小学校PTA 25名

④2007年1月27日(土)「地域子ども教室」相川公民館 主催:相川公民館(予定)

⑤2007年2月17日(土)サダークラブイベント 妻田小学校体育館 主催:妻田小PTA(予定)

3. 結果

《校内LAN活用研究》

デジタル教材や自作教材等の静止画やアニメーションをスクリーンに表示することによって、課題に集中し、学習意欲の喚起につながった。

《サイエンスフェスティバル》

現代社会が子どもの遊びの大切さを再認識し、公民館事業で「子ども広場」で折り紙ヒコーキのイベントを行うことが多くなった。夢を持ちながら工夫する大切さを多くの子どもが体験できた。

4. 今後の課題と発展

《校内LAN活用研究》デジタル教材のコンテンツを増やすとともに、自作教材のデータベース化を図っていき、普通教室でいつでも授業を行える体制を作ることである

《サイエンスフェスティバル》イベントの要望に対応できるように、折り紙ヒコーキの種類を増やすとともに、競技会の方法を工夫していく。

今回、財団より理科・環境教育助成を受け、上記の研究やイベントを実施でき、心より感謝する。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

特になし